

平成27年度九州大学大学院法学府
修士課程入学試験問題（春季）

国際政治学

以下の課題文を読み、設問(1)～(3)にすべて答えなさい。

【課題文】

①

②

③

④

出典： Susan Strange, *The Retreat of the State: The Diffusion of Power in the World Economy* (Cambridge: Cambridge U. P., 1996.), pp. 32-33. (櫻井公人訳『国家の退場—グローバル経済の新しい主役たち』岩波書店、2011年、61-63頁)

【設問】

(1) 下線部①政治研究が国家によって「植民地化」されてきた、および下線部③国際関係の研究がこの植民地化にもっとも苦しんできただろう、という主張の妥当性を、政治学および国際政治学・国際関係論の研究事例・研究史などを踏まえて論じなさい。

(2) 下線部④国家の中心的役割は揺らいでくる、という主張について、安全保障構造が再定義されるとなぜ国家の中心的役割が揺らいでくるのか？当該下線部の主張を踏まえた上で、その妥当性を論じなさい。

(3) 下線部②この窮屈な発想からの知的解放、という指摘から具体的にどのような研究が想定されるか？そうした研究の実現可能性を自由に論じなさい(本設問においては必ずしも著者(Susan Strange)の研究や問題意識などを踏まえる必要はなく、「この窮屈な発想からの知的解放」から想定される研究内容とその実現可能性を、論点等を自由に設定して考察して構わない)。